

2021 年 6 月 1 6 日

リサイクル燃料貯蔵 (株)

### 電源車の配置と移動について

電源車が 1 台の場合、は点検や車検等の際に、使用できなくなる場合がある。この時に仮想的な大規模津波（以下、「津波」という）が襲来した場合、津波襲来後の活動拠点に給電する設備がなくなることから、電源車の予備を保有する。予備の電源車を考慮した配置について説明する。

#### 1. 電源車の配置と運用について

電源車は津波による浸水を避けるために、影響を受けない南側高台に配置する。津波襲来時は、活動拠点に給電を行う。

予備の電源車は、移動電源車接続箱が設置されている受変電施設東側に配置する。外部電源喪失時は、受変電施設に接続し、リサイクル燃料備蓄センター内に給電する。

なお、どちらの配置においても、竜巻による飛来物となることを防ぐために固縛を行う。また、火災の影響も評価し、影響がないことを確認している。

#### 2. リサイクル燃料備蓄センター内の電源車が 1 台となる場合の対応

点検等に伴いリサイクル燃料備蓄センター内の電源車が 1 台となる場合、南側高台に固縛して配置するものとする。この状態で外部電源が喪失した場合、解縛し、受変電施設東側に移動して、電源車から給電を行う。

#### 3. 津波が襲来する場合の対応

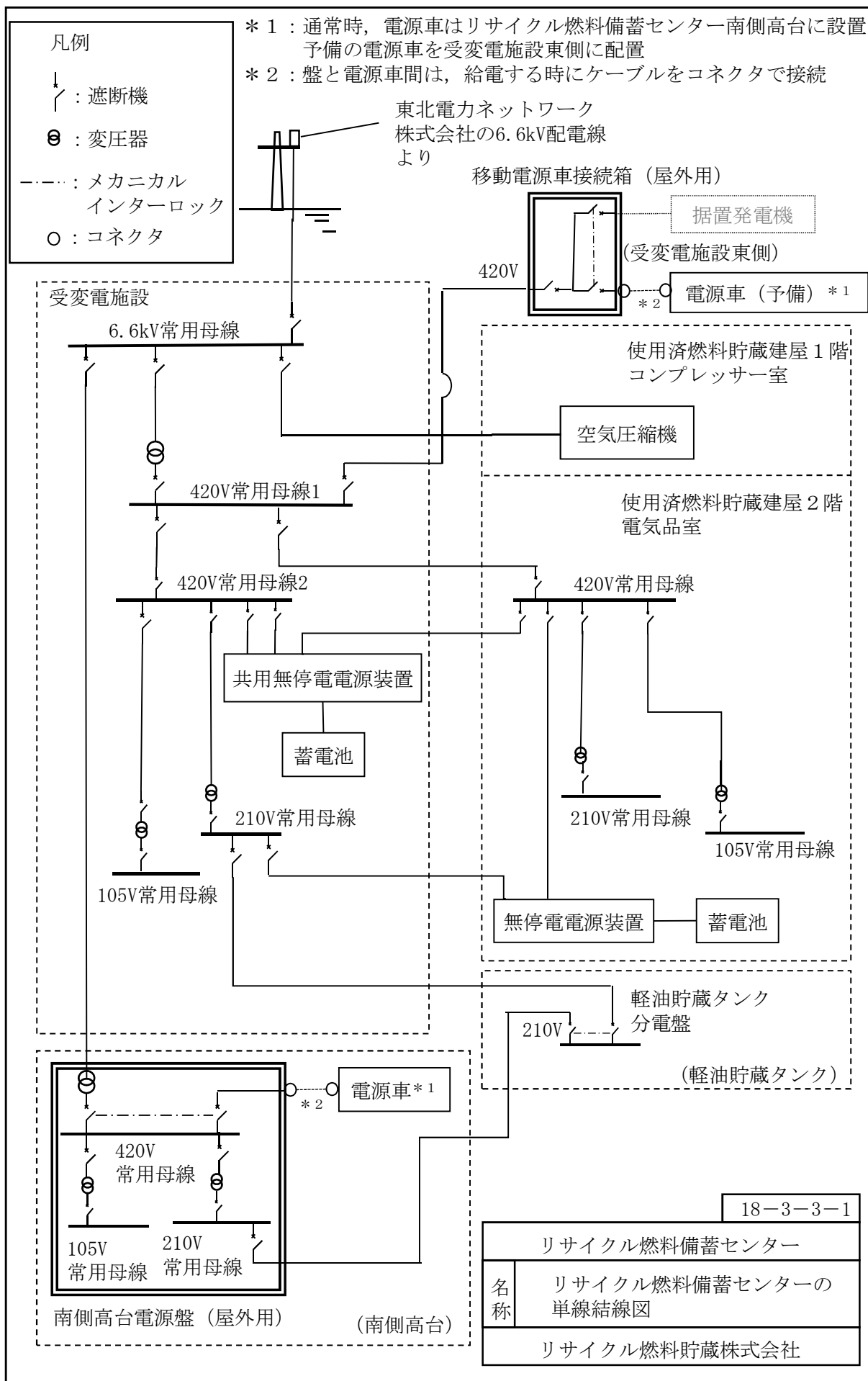
津波襲来時、移動電源車接続箱が設置されている受変電施設東側は T.P. 約 20m のため、予備の電源車が浸水する可能性がある。

大津波警報が発生した場合は、人身安全を優先するため、電源車を移動させることは定めがない。しかし、津波の到達予測時間や高さ予測を考慮して、安全に電源車を解縛して移動させることが可能と判断した場合には、電源車を移動させる。その際には、電源車の火災や電源車が竜巻により飛来物になった場合でも、貯蔵建屋に影響を与えないように距離を確保するために、リサイクル燃料備蓄センターの敷地外へ移動させることとする。

添付ー 1 リサイクル燃料備蓄センターの単線結線図

添付ー 2 リサイクル燃料備蓄センターの津波浸水範囲と屋外機器配置図

以上



リサイクル燃料備蓄センターの津波浸水範囲と屋外機器配置図

